

日時：令和5年9月6日（水）16:20～18:00

参加者：国立研究開発法人防災科学技術研究所災害過程研究部門 部門長 永松伸吾、菅野拓、梅山吾郎

主な意見

○防災科研で進めている災害対応DXの一つのモジュール（要配慮者へのなど、保健医療への対応）として、D-VICSを取り込み研究開発・実装していく可能性は十分にある。

○防災科研で開発を開始した災害対応DXのシステムの詳細とD-VICSの内容を半日程度で紹介しあう場を設けて、研究開発・実装に向けた連携の具体的な内容を意見交換する場を設けることとした（防災科研内で本日の情報を共有いただき、実施時期などは別途調整する）。

○防災科研の災害対応DXシステムが一定完成した段階では、実災害での実証を検討しており、モジュールとしてD-VICSが組み込まれれば、同時に実証が可能である。

○他方で、防災科研は研究機関であり、D-VICSシステムのサーバーやデータ管理などの運用を実施できる主体ではないため、実運用をすることはできない。

日時：令和5年11月19日（日）16:15～17:45

参加者：国立研究開発法人防災科学技術研究所災害過程研究部門 部門長 永松伸吾、宇田川真之、折橋祐希、辻岡綾、菅野拓、市川学、尾島俊之、萩行正嗣

主な意見

○D-VICSの開発概要及びシステムの説明を実施した。現状、D-VICSは社会実装するため道筋が見えていないため、その青絵図を描くことが今年度研究の一つの目的であることを説明した。

○応急対応DXは、市町村の災害対応の合理化を目標としているシステムで様々な機能を持つが、現場の情報をもとにどこに何人配置するのかをDX化し、市町村の全庁的な意思決定ができるような仕組みを考えている。その中で、D-VICSは要配慮者支援の部分に接続できる可能性があることを意見交換した。

○今後も両者でそれぞれシステム開発が進んでいくと想定されるが、引き続き意見交換を実施し、うまく繋がりができればよいということを両者で確認した。

○意見交換のタイミングは、両者の開発が進み連携の具体的な会話ができる時期を別途調整することとした。